

園長だより NO60

「もういくつ寝るとお正月」2020年も残り少なくなってきました。この1年は新型コロナウイルスの対応に追われた年、終息はいつだろうか？先きがみえない事への不安、しかしここまでひとり、一人が感染症と向き合い、みんなで協力して今日までできました。こんな状況でも新たな人との出会いや結びつきがあったことも事実、知恵を出し合い新しい生活様式を作ってきました。

来年も大好きな子ども達のため充実した生活が送れるような環境を作っていきたいと思っています。

待機児童0目標未達

待機児童の減少を掲げ全国的に保育園の新たな整備は続いています。「待機児童0」を目標にしてもその達成はできるのでしょうか？※鎌ヶ谷市は6年連続（4月時点国基準）で待機児童0を更新中です。

待機児童の未達は女性の就業率の向上に施設整備が追い付かないことが要因としてあります。就業率が上がれば利用希望者率もありその結果、受け皿の不足が生じる。

保育料の無償化を行い保育需要の掘り起こしもあり、施設整備(受け皿)と利用数のミスマッチとなる。行政側は頭を抱えて考え込んでいることでしょうかこの問題はまだまだ続きそうです。施設整備の予算をどこから捻出するのだろうか

国は新しい子育てのプランを公表した、

2024年末までに約14万人分の受け皿を確保するという。保育園をまだまだ建て続けるということ。その財源は児童手当を縮小して財源にするという。児童への手当を削り、新たに受け皿をつくる。子どものための補償がいつも簡単に削られる国？まさに時代に逆行している国ともいえるのでしょう。

保育園の現状と課題と取り組み

実は受け皿（保育施設）の急激な増加により悲鳴を上げている保育園が多くあることはなかなか公表されない、「保育士不足、十分な研修体制がとれない、劣悪な労働条件、」保育士が頑張り、我慢してなんとか保育を維持できるならギリギリ持ちこたえられるでしょう、最悪の事態は時々メディアで取り上げられる。

つい最近では小規模保育事業の園長による児童の虐待、なまなましい映像が公開された、本来なら穏やかに心地よく過ごす保育園が十分な人的環境や労働環境の欠如により保育士が疲弊し穏やかな感情を捨て去り、結果、子ども達の生活を歪ませてしまう。

受け皿の確保を最優先にした結果、保育内容や保育環境の質が低下した、または維持できない状況になっている園があることは事実である。

国に責任を取って下さいとは到底言わない、言っても相手にされるわけではない、ならばそれぞれの保育園で保育の質が向上する試みを行っていくこと大切です。

もうすでに多くの園は取り組んでいるのです。保育の受け皿の量的拡充と共に早い段階から保

育の質を高める取り組みを地道ながら我が園でも行っている。「焦らず、急がず、じっくりとすぐに結果を求めず」にこつこつと取り組んでいる。その一つが園内での研修です。

園内研修

園内研修は研修係を中心にその年の「学びのテーマ」決めます。現場からリサーチし各学年のリーダーや管理職を含め討議し今年度は「丁寧な保育」について学びの機会を作っていました。

特に今年は乳児保育を柱に据えながら子ども達の愛着形成と自我の育ち（自己肯定感の育み）、生活での(衣、食、住)についての子どもの理解や保育士の関りなどをディスカッションしてきました。まずは面前の子ども達の理解、(それぞれ、ひとり、ひとりの状況、発達や言葉に出ていない内面の読み取りなど)を意識して保育にあたることを積み上げていくことを保育の課題に取り上げました。

「遊びたいときに遊ぶ、食べたいときに食べる、眠りたいときに眠る。」こんな理念は究極のこと、子どもの自己選択、自己決定、あれこれ指示を受けない自らの行動など自らが主体的に生活を送ってもらいたいと願っています。

保育園は集団での保育であり、一斉や大きな単位で行動する仕組みになっていますができるだけ、それぞれの思いや状況に対応できるようにしたいという思いをどの保育士も抱いています。

またこれまで慣例的に行われてきたもの

見直しやあたりまえに行ってきたことの見直しなど現場の疑問？や困り感を共有し自分たちが掲げる保育目標に近づけるための学び(研修)を行ってきました。



「1歳児クラスの発表」

例えば食事において果物等のデザートは先に食べる？ 後に食べる？ 一般的には主食、副食すべて食べ終わったらデザートにという流れになります。

保育現場ではよくあること、研修でいろいろと考え、思いをぶつけ、深めていくと、食事のルール、マナーよりもその子の心情を優先して上げようということになる。年齢が低ければ尚更、食べることの意欲や食べたことへの満足感、加えて自分で食べたいと思い、主張が認められことが自己肯定感の育みにつながる。

あるクラスではデザートから食べたいと思いを伝えた子にデザートから提供した、その結果、その後の食事が意欲的になったとの報告もあります。すべての子にその対応というわけではありません。基本はそれぞれの子どもの状況に応じることができるとのことです。

保育の質を上げていく取り組みは今後も継続していきます。保育士の質が上がれば、当然子ども達の豊かな生活が保障されます。

(園長 廣部 信隆)